

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792700094		
法人名	株式会社エバカラー		
事業所名	グループホーム ウェル永楽 (2階)		
所在地	大阪府大阪市大正区三軒家東1丁目12番地7号		
自己評価作成日	平成27年5月8日	評価結果市町村受理日	平成27年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2792700094-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成27年5月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

看護師を職員として配置しており、日々の生活の中で医療面での助言を得る事ができる体制になっている。また、できるだけホームの外へ出る機会を増やす様天気の良い日は毎日近隣への散歩を実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは法人理念を基に、利用者に寄り添う事や尊厳を守る事、地域交流などを謳った3項目からなるホームの方針を掲げています。日々のケアが利用者を中心に寄り添うことを大切にした介護となっているか、業務優先となっていないかなどを確認しながら理念に沿った支援に取り組んでいます。日々近隣の神社や段差や交通量の少ない散歩コースを選び日課の散歩や買い物に出かけ気分転換をもらったり、季節に合わせた初詣や花見、地域の祭りなどに出かけ日常の中での外出支援に力を入れています。また職員間の横の繋がりを大切に意見や提案を出しやすい環境作りに努め、職員は月に1度のケア会議や日々の業務の中でケアに関する内容や業務改善など積極的に意見や提案を出し合い一人ひとりに合わせた支援となるよう取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念、ホームの理念を玄関に掲示している。	利用者に寄り添う事や尊厳を守る事、地域交流などを謳ったホームの方針を掲げています。玄関やリビングの見やすい場所に掲示し、入職時には方針を共有できるよう込めた思いを伝えていきます。利用者に寄り添うことを大切にしたい支援となっているか、業務が優先となっていないかなど会議の中で確認しながら実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣への散歩はほぼ毎日実施している。自治会に入っているものの関係はまだ薄い。今後、自治会の行事等に積極的に参加していく予定である。	自治会に加入し地域で行われる敬老会に参加したり、ゴミ拾いなどの行事には職員が地域の一員として参加しています。保育園の卒園式の予定演習の見学や小学生から敬老会に参加した時のお礼の手紙が届くなど継続的に交流しています。またギターや和楽器などの演奏やカットのボランティアの来訪もあり利用者は楽しんでます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回運営推進会議を実施し、ホームの運営状況等の報告を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告を行い、地域の方やご家族の意見を頂くことでサービスの向上を行っている。	会議は利用者や家族、民生委員、地域包括支援センター職員などの参加の下、隔月に開催し、ホームの現状や行事報告などを行い意見交換をしています。避難経路に物を置かないようにとの意見や足元灯の設置などの意見も出され、安全な避難経路について意識できるよう話し合ったり、足元灯については法人に上げ検討されるなど運営に活かせるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政上の不明なことはすぐに市の窓口相談し、助言を頂くようにしている。	分からない事や不明な点などがあれば窓口を訪問し相談を行い助言やアドバイスを頂いています。市が主催する健康体操や栄養講座などがあれば職員が参加し情報交換を行い連携が図れるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルがあり、定期的な研修を行っている。どうしても身体拘束が必要な場合はご家族と話し合い許可を得た時のみ行う。その際も定期的に外せないか話し合いを行うようにしている。	法人として身体拘束排除宣言をしており、年に1度身体拘束に関する研修を受講し不参加の職員に伝達し周知しています。身体拘束に該当するか疑問が生じた時には拘束の範囲について職員間で話し合い理解を深めています。総合玄関は施錠していますがフロア出入り口やエレベーターは利用者が自由に使えるようにしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を通して職員に指導をしている。		

グループホームウェル永楽(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご入居者の中に成年後見制度を利用している方もおられ、制度について学ぶ機会を増やしていきたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は契約書・重要事項説明書等を文書で示し、疑問や不明点がないかその都度確認するよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、活用はされていない。ご家族から意見があった時はその都度対応していけるよう体制作りしている。	家族の意見は運営推進会議や面会時に利用者の様子を伝える中で聞き、面会の少ない家族には電話を掛け聞くようにしています。また年に1度項目を分けて実施している満足度調査の中でも意見や要望を聞いています。郵便物の家族への受け渡しについて意見が出され、職員間で検討の上、速やかに家族へ渡せるよう改善するなど、サービスに反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から提案してくる事も多く、反映できるような体制作りをしている。	職員の意見は毎月のケア会議や業務の中で聞いています。日頃から横の繋がりを大切に意見を出しやすい雰囲気作りに努めており、ケアに関する意見や業務改善など多くの意見や提案が出されています。意見によってはその日の職員間で検討し決められることも多く、申し送りノートで伝達し共有しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からの提案をできるだけ取り入れるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	チェックリストを活用し、職員の指導に役立てている。法人内外の研修には対象者を考えて機会を与えるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修を通じて同業者と交流を図っている。		

グループホームウェル永楽(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談でご本人からの要望を伺い、不安を取り除き安心して入居できるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用勧誘を押し進めず、ご家族の困り事や不安な事をよく聴くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームが適切かどうか判断し、必要に応じては他のサービスの説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や洗濯のお手伝い等をして頂いたり、時には教えて頂き、学ぶ機会もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	1か月に1回は日常生活のご様子や写真をご家族に送付し、関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間は設定しているものの連絡があればいつでもできるようになっている。外出や外泊も希望に応じて対応している。	馴染みの関係継続の支援では利用者の希望を聞いて担当職員が付き添いユリ園などに出かけたり、家族の協力を得て旅行に出かける方もいます。外出支援には力を入れており、職員体制が整えば馴染みの場所などの個々の希望を聞きながら外出支援に取り組む予定としています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士会話が楽しめる様食事の席は柔軟な対応をするよう心掛けている。		

グループホームウェル永楽(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してもご家族から相談等あればいつでも対応するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のコミュニケーションの中からご本人の意向や希望の把握に努め、少しでも実行できるようにしている。	入居に向けては本人や家族から暮らし方の希望などを聞いたり、担当していたケアマネジャーからも情報をもらい思いの把握に努めています。入居後は共に暮らす中で思いを聞いたり、様子などから汲み取るように努めています。また家族の意向は面会時やサービス担当者会議の際に聞き、来訪が困難な家族には電話や文書を用いて聞きケアに活かせるよう検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族以外にも前ケアマネジャーや面会者等から話を伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身心の状態把握に努めている。できる事はして頂き、さらにできる事はないかという視点を持って支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意見を取り入れ、職員間で話し合いを行い、計画書を作成している。	利用者や家族の意向を反映した介護計画を作成し、6ヶ月から1年で見直しを行い、状態に変化があった場合は随時見直しています。見直しに向けたサービス担当者会議は家族や利用している福祉用具の担当者の参加を得ることもあり、参加が得られない医師や家族には事前に意見を聞き反映させています。また見直し前にはモニタリング及び評価、再アセスメントを行い利用者の現状を把握しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者の日々の生活の様子や気付いたことを記録することで介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のニーズには柔軟に対応し、支援するよう心掛けています。		

グループホームウェル永楽(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医による月2回の往診を行っている。通院が必要な時はご家族の協力を得ているが付添いが難しい時は職員が行っている。	入居前のかかりつけ医を継続している方は家族や家族が行けない場合は職員が付き添い受診したり、往診を受ける方もいます。受診結果は家族から聞いたり、直接かかりつけ医に問い合わせることもあり共有しています。24時間相談できる協力医は月2回の往診があり、2週間に1度訪問歯科に来てもらっています。また看護師の配置があり、相談や助言を得ながら支援をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、健康面・医療面での助言をもらい支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先からの診療情報を元にご家族と話し合いをし、入院先から留意点の確認に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際にご家族と話し合い、ホームでできることの説明を行っている。実際に重度化した時にも再度確認を行っている。	入居時に看取りの指針に基づいて医療行為が伴わない場合は支援を行えること等、ホームで対応が可能な内容を説明しています。看取り支援に関するマニュアルを整備し、個々の職員には終末期の具体的な対応などが記載された資料を渡しており、意向に添って支援できるよう体制を整え取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成しており、対応できるように研修を行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練実施している。	年に2回、其々昼間、夜間を想定した避難訓練を利用者と共に行い、初期消火や避難誘導などの訓練を実施しています。またホームは運河の傍にあり、水害などの災害時の対応について自治会長と話し合い、地域の避難所には行かずホームの3階に避難するよう決めています。	

グループホームウェル永楽(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護のマニュアルがあり、定期的にホーム内研修を行うようにしている。	利用者の尊厳を守ることは理念にも掲げており、プライバシーなどに関する定期的な研修の実施の他、会議時などに認知症について学ぶ機会があり周知に努めています。利用者の尊厳を大切に否定的な言葉かけをしない事などに留意し、不適切な言葉かけや対応があれば個別面談を実施し注意をしています。認知症理解に向けた職員教育を予定しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思が尊重されるように希望を聞いたり、確認を行うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事やレクリエーション等の参加は無理強いせず、ご本人の意思を最優先にするよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の趣味に合う衣服を着て頂くようにしている。希望があれば理美容院も利用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を把握し、食事の準備や片付け等を一緒に行っている。	献立はその日の担当職員が利用者の好みや肉や魚が重ならないよう野菜を多く取ることを考慮し立て、利用者には皮むきなどの下拵えや皿拭きなどできる事に携わってもらい作っています。時にはショッピングモールの飲食街のの外食や弁当を取ったり、たこ焼きやホットケーキなどのおやつを共に作り、食べることを楽しむよう支援をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量や水分量をチェックしている。食事の形態については一人ひとりの状態に合わせて柔軟に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施できりょうに声掛けを行い、必要に応じて介助を行っている。		

グループホームウェル永楽(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつける事で排泄パターンを把握し、トイレで排泄が行えるように声掛け等の支援をしている。	排泄記録から個々の排泄パターンを把握し、その方に合わせた支援に努めています。おむつを使用している方も、排泄のサインを見ながらトイレでの排泄を支援することで尿意が戻り、歩行も安定し紙パンツへ改善した方もいます。また夜間のみポータブルトイレを使用する方など一人ひとりに合った支援方法を検討し、失敗なく自立に向かえるよう支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や乳製品の摂取によつての自然排便ができるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	週に2~3回入浴して頂いている。曜日は決まっているがご本人の希望等によっては臨機応変に対応している。	入浴は午前9時頃から午後7時頃までの間に声をかけ入ってもらっています。一人ずつ湯を入れ替え季節の柚子湯やしょうぶ湯、温泉の素を入れたり、希望があれば毎日入ることもでき、意向に添って入浴が楽しめるよう支援をしています。入浴を拒む方は翌日にするなど柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、ゆつくりと休息がとれるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は職員二人以上で確認し、誤薬のないよう細心の注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でお手伝いが日課になっている方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望に合わせて外出できるよう計画をしている。また、ほぼ毎日近隣への散歩を実施している。	近隣の神社や、段差や交通量の少ない散歩コースを選び日課の散歩や買い物に出かけたり、季節に合わせた初詣や花見、地域の祭りなどに利用者と一緒に出かけています。また年に数回、個々の希望を聞きながら行きたい場所に出かける個別の支援にも取り組んでいます。	

グループホームウェル永楽(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出した際にご本人が買いたい物を買えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じて手紙や電話のやり取りができるように支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居者が安心して過ごせる様な空間作りに心掛けている。	共用空間は季節に合わせた作品などを飾り利用者が季節を感じられるように配慮をしています。利用者間の相性や希望を聞きながらテーブルの座席を決めたり、寛いで過ごせるようソファを置いています。また窓から入る光りを過ごしやすいようカーテンで調整したり、利用者にとっての適温を考えた温度設定に努めるなど、居心地の良い空間となるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の際は仲の良い方と同じ席になるよう工夫をしている。また、新しく入居された方も輪に溶け込めるように職員やご利用者も働きかけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使い慣れた家具等をご持参して頂き、今までの生活と変わりなく過ごせるよう対応している。	入居時は馴染みの品や大切な物は何でも持って来てもらうよう伝えています。利用者は使っていた筆筒や座り慣れた椅子、テレビなどを持参し過ごしやすいよう配置をしたり、ラジカセや化粧道具など、身近に使っていた物などを持参しています。また居室が分かり難い方には好きな目印となるものを貼り分かりやすいように工夫をしたり、生活習慣に合わせて畳を敷いて過ごすことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事はご本人にして頂くが、見守りや声掛けをする事で安全に過ごして頂いている。		